

衛星安否確認サービス「Q-ANPI」の通信端末配備について

今年度、準天頂衛星システム「みちびき」を利用した国の事業を活用し、衛星安否確認サービス「Q-ANPI」の通信端末が8台配備される予定となっている。

これにより、災害で通信インフラが断絶した際にも、この「Q-ANPI」を利用して衛星通信経路で避難所の状況を把握することができるようになる。

なお、この通信端末については、内閣府及び準天頂衛星システムサービス株式会社が都道府県に対して5年間の無償貸し出しを行っており、今回の宮崎県への貸し出し決定は九州初となる。

《令和元年度市総合防災訓練における「Q-ANPI」を利用した安否確認訓練》



市職員を配置することとしている避難場所（全22箇所）のうち、次に配備予定。

中央公民館、美々津公民館、南日向公民館、日知屋公民館、大王谷公民館、農村交流館、日向中学校、東郷学園

上記の施設は、いずれも地域の拠点となる避難場所であり、台風接近時の避難場所として施設利用率が高いため、避難者の安否確認等を含め状況把握が重要となっている。

※ 通信端末は専用ケースにて持ち運びできるため、必要に応じて上記以外の施設に設置することも可能。

また、通信端末は市職員が操作し、市災害対策本部と連絡を取り合う。

衛星安否確認サービス (Q-ANPI) の概要



避難所等の情報を収集して、みちびきと管制局を経由して関係府省庁、地方自治体等の防災機関に情報を伝えます。

発災時に地上の通信インフラ網が被災し、通信の途絶・輻輳が発生した場合にも、衛星安否確認サービスを利用することで、避難所・避難者の情報を集約することができるため、早期の救助・救援に役立ちます。また、近親者が電話番号等で検索することで、避難者の状況を確認することもでき、安心安全につながります。

サービス利用料および通信費は無料です。



衛星安否確認サービス (略称 : Q-ANPI)

Q-ANPIは何ができるの

